

企画事業

なすかしの森環境スタディ ～「水」冒険へ出発～

事業の概要

事業のねらい 大自然の中での長期にわたる集団宿泊を通して、「川」「水」に注目し、環境・地域学習を実施することで、子どもたちに自分の日常生活がより環境に直結している、身近な問題であることを捉えさせ、環境問題に対して主体的に考え、実践できる力を育む。

期 日 平成22年7月24日(土)～8月1日(日)8泊9日

会 場 国立那須甲子青少年自然の家を中心とした下記の場所
 ・探索場所：阿武隈川，那珂川，渡良瀬川とその周辺
 ・見学場所：足尾環境学習センター（栃木県日光市），なかがわ水遊園（栃木県大田原市）
 ・体験活動：栃木県日光市足尾銅山，栃木県大田原市，宮城県丸森町

対 象 者 小学校4年生～6年生

参加者数 29名(15名)
 (学年：4年生14名，5年生2名，6年生13名)
 (地域：茨城県7名，千葉県1名，栃木県14名，福島県7名)

日 程

	7:00	12:30	17:00	宿泊
7/24 (土)		受付	出合いのつどい 野外炊飯(協力して炊飯 をしよう)	講話「水と私たち」 環境・地域学習 オリエンテーション 当所
7/25 (日)	朝食	阿武隈川源流探検〔雄滝・雌滝〕 (川のはじまりを確かめよう)	夕 どい 食	振り返り 当所
7/26 (月)	つどい 朝食	阿武隈川本流・下流探検 (海へそそぐ川の目撃者になろう)		(宿泊)巨理町鳥の海荘 振り返り〔宮城〕 移動はバス
7/27 (火)	朝食	阿武隈川本流・下流探検 (箱眼鏡でのぞく水中の別世界を味わおう)	夕 どい 食	振り返り 当所
7/28 (水)	つどい 朝食	阿武隈川上流探検〔西の郷ハイキング〕 (清流の川を感じながら水中の別世界を味わおう)	夕 どい 食	蛍生息地 の見学 振り返り (羽太地区) 当所
7/29 (木)	朝食	渡良瀬川源流探検〔足尾環境学習センター・植樹〕 (足尾を流れる川の歴史を知り，自分の手で木を植えよう)	夕 食	振り返り 当所
7/30 (金)	朝食	那珂川源流・本流・下流探検 (川のはじまりや，河口を確かめよう ・箱眼鏡でのぞく水中の別世界を味わおう)	夕 食	振り返り 当所
7/31 (土)	朝食	なかがわ水遊園 (那珂川に住む淡水魚の生 き方を確かめよう)	昼 食	エコ野外炊飯 (エコ炊飯にチャレンジしよう) キャンプファイヤー 振り返り 当所
8/1 (日)	つどい 朝食	全体の振り返り 別れのつどい	昼 食	

プログラム紹介



【阿武隈源流を目指して】

急な崖をよじ登ったり、鎖にしがみついたり自然の威厳を感じながら阿武隈川の源流『雄滝・雌滝』を目指した。探求を通して水生生物との新たな出会いもできた。貴重なサンショウウオを発見することもできた。



【なかがわ水遊園見学】

探検してきた那珂川について、なかがわ水遊園（大田原市）を訪れ、那珂川源流から河口までの様子を映像で確認した。また清流那珂川に住む淡水魚や生物を間近で観察することができた。



【植樹体験】

渡良瀬川の源流に「自分の手で木を植えよう」という合い言葉の下、『環境のまち足尾』に行き植樹体験を行い、『破壊は一瞬、再生は永遠』ということを感じた。



【堀川ダム見学】

堀川ダム（福島県）・深山ダム（栃木県）を見学し、『私たちの暮らしを支える水』を蓄えるダムの役割について学んだ。また、『水の循環』や揚水式による水力発電の仕方などを知ることができた。



【蛍の見られる里】

夜蛍のたくさん舞う、水のきれいな地域（西郷村羽太の川周辺）を昼間のうちに見学し、湧き水の多さや水生生物、水の透明度を調べた。昼は湧水を飲み、夜は蛍狩りを体験した。



【エコ炊飯】

野外炊飯を環境学習前と学習後の2回実施し、子どもの炊飯の姿を比較した。2回目は特に、10Lのウォータータンクを各班3本ずつ（限定）配布し、『水』を意識したエコ炊飯を実施した。

企画・運営のポイント

当所の自然環境が阿武隈川源流域という特徴から、「水」をテーマ冒険活動や調査活動を行い環境への関心が高まるようなプログラムを編成した。活動全体を通して、参加者が自ら考えめあてを持って活動できるように活動日の前日に考える時間を設定したり、活動後には「ふりかえりシート」の記入を行い、その日のまとめを行う時間を設定したりした。「ふりかえりシート」にあたっては、気付きや感想、疑問等を色別に記入し、自分の考えがどう変化していったかわかりやすい工夫した。長期の宿泊となるため、事前の健康調査票（心情等も記入）の提出や活動中の健康観察、気象情報のチェックなど事故防止も含め安全管理に万全を期した。緊急事態に備え、活動時の事故回避や安全対策、関係機関との連絡体制の確立、家庭との連絡体制等の充実を図った。

事業を終えて （成果と課題）

さまざまな活動を通し、環境に対する意識に変化が生まれ、野外炊飯時では、米とぎ汁を残しておいて片付け時に、なべ、かま、食器洗いに再利用する姿が見られた。「少ない水」「少ない洗剤」「少ない残菜」で環境を守り保全する意識が高まった。8泊9日の活動中、自分のことはすべて自分で行うことで「自分のことは自分で」という自立心が芽生えたり、「積極的に活動に参加しなくては」という意欲も芽生えた。今回は無事故で「川」プログラムの事業を修了することができたが、安全面を第一に考えると、スタッフの人数をもう少し確保する必要があったかもしれない。一日の「振り返り」がしっかりできるようプログラムにゆとりが必要であった。「生活の中で心掛けること」「今後やってみたいこと」など全体で意見交換を行いながら、最後の「学習のまとめ」の持ち方に工夫する必要があった。

今後の方向性

今回は水生生物の生態により環境を考察したが、今後は水質調査等を実施し、数値で表すなど科学的根拠(裏付け)を示し活動のまとめができるようにする。当所の利用団体にプログラム内容を紹介して、そのプログラム活動を通して「環境」についての意識を高めてもらうように支援にあたる。

【プログラム事例】

1 「水」の探検活動プログラム

東北を代表する阿武隈川、関東の清流を代表する那珂川、過去に水質汚染という公害の歴史を抱えた渡良瀬川の3つの河川を調査探求し比較する。

阿武隈川、那珂川は、源流から河口までを、登山や沢歩き探検やライン舟下り等を通して、探求した。水の流れ、働き、水の力等を体感したり、箱眼鏡を使用して、水生生物の観察をしたりすることができた。また、その2つの河川と渡良瀬川の比較の仕方については、主に源流周辺の現状を認識することに焦点を当てた。

体験活動を通して実感した内容は、ながわ水遊園、足尾環境学習センター等の見学地でまとめができるように展開し、自分たちの身近な生活が川に及ぼしている影響についても知る機会とした。

本プログラムは、これまでに学校で学習を通して獲得した知識を、実体験活動を通して確かな学力として結びつけることができるプログラムである。



〔水の力を体感する〕



〔水生生物を調べる〕



〔河口周辺を散策する〕



〔阿武隈大堰見学〕



〔緑のダムについて学ぶ〕



〔体験した内容をまとめる〕

2 自然再生の大変さを実感させたプログラム

日本一の銅山のある栃木県の足尾を訪れ、銅親水公園展望台から、はげあがった山々を眺めながら過去の環境破壊が未だに解決できずに再生が続けられている現状を把握した。その後、「足尾に緑を育てる会」の『みなさんの孫までも再生の努力を伝え続けていかなければならない』というお話を伺いそして、自分自身の手で1本1本植樹する体験を通して「破壊は一瞬であり、再生は永遠である」という自然再生の大変さを実感させた。



〔足尾銅山を眺める〕



〔講師から学ぶ〕



〔足尾の現状を知る〕



〔土入れ〕



〔苗植え〕



〔植樹体験〕